

2021 年度活動報告

新型コロナウイルス感染症感染拡大による社会状況の変化から2年がたちました。このような状況の中でも、WE21 ジャパン(以下 WE21)ではリユース・リサイクル環境事業、民際協力事業を核とし、WE21 のミッションを遂行してきました。

しかし、この間フェスタイベントの中止、受託事業の減少など、WE21 の財政基盤はひっ迫していました。特に、受託事業に大きく依存する WE21 では、繰り越しの流動資産が毎年減少し収入と支出のアンバランスの解消は緊急の課題となっていました。

今年度は、事務所移転や業務委託費の見直しなどの経費削減を図るとともに、今までの資産を活用し、赤字予算を組んででも思い切った設備投資が必要であると提案して、2021 年度をスタートしました。2023 年度実施予定だったオンライン販売事業の前倒しや、次世代へのコミュニケーションツールとしての新ホームページへの刷新などの対策を立てました。計画は12月完了を予定していましたが、年度末にずれ込み、また、補助金の回収も次年度に持ち越されたため、収益に結びつかず厳しい年度末の結果となりました。

同時に、NPO 法人として WE21 が設立してから20年以上がたち、全体の組織・事業の見直しの時期に来ていることも課題として挙げられました。

2021 年度計画では WE21 ジャパン・グループ(以下 WE21 グループ)メンバーとともに、これらの解決のために組織改革委員会を立ち上げる計画でしたが、まず理事会内で討議し提案するため、国際協力 NPO 基盤強化支援事業の助成を受け、団体の組織を自ら分析し、特に財政基盤を整えるための計画につなげる組織基盤強化研修を行い、理事ミーティングで話し合いを重ねてきました。

また、活動面では、重点目標だった市民力を高める活動について、民際協力・RR 環境事業の中から見えてきたものを、共育・提言につなげることを心掛け、行ってきました。

今年度は、ミャンマーのクーデター、ロシアによるウクライナ侵攻などに対し、学習会の開催や WE21 の声明の発信などを実施しました。

また、オンラインツールを活用し、WE21 のリユース・リサイクル事業や、民際協力事業に関する活動を、イベントを通して市民と共有する機会を増やしていきました。

■事業の活動内容

I 特定非営利活動に係る事業

1 社会を変えるための市民力を高める活動（調査・政策提言活動、社会教育などの事業）

1-1 WE21のリユース・リサイクルの現状を調査・分析し、再構築して理念につなげていく。

- ・原材料調達から販売、廃棄まで環境負荷が大きいファッション産業への問題のアプローチとして（一社）サーキュラーコットンファクトリー(以下 CCF)に参加した。衣類から紙を作る循環が地球環境に配慮している事を伝えるパワーポイントを作成し、WE21 グループの参加を募るための説明会を行った。
- ・2月に開催されたSDGs よこはま CITY 冬に参加し「WE ショップを通じた人や物、思いがつかざる循環する社会へ」と題して、WE ショップで展開している資源循環のシステムを広くアピールした。
- ・日本チャリティショップ・ネットワーク（JCSN）と連携し、「チャリティショップ白書を読む会」を開催。チャリティショップの紹介やボランティア活動等について、冊子の活用方法の学びの場となった
- ・衣類の「大量廃棄」の問題に取り組む関東学院大学ゼミ生が、学内でWE21の活動を紹介し、衣類を取り巻く現状と課題を共有してアピールする活動に協力した。

1-2 開発教材「今日はフェアトレードの日!？」を活用し、責任ある生産と消費について考える共育講座を行なっていく。

- ・開発教育協会（DEAR）d-lab、関東学院大学基礎ゼミにてワークショップを実施し、フェアトレードの意義、責任ある生産と消費について考える機会を提供した。
- ・WE21 グループに対しては、森育ちのしょうがパウダーのバージョンを作成した。WE ショップからもう一つの海外支援であるフェアトレードを伝えることの意義について教材活用講座を開催し、伝えた。今後はさらに森育ちのしょうがパウダーバージョンを通じてWE21 グループでの活用を促したい。
- ・ワークショップ実施先が固定化し、広がりがない課題があり、アプローチ先の検討が必要。また、社会の変化を現在の教材でどう対応していくかの検討も必要。

1-3 多様な人たちがともに生きられる社会を目指し、様々な団体のネットワークに参加し、情報を発信していく。

- ・私たちの税金によって行われるODAに関する課題として、市民弾圧を続けるミャンマー国軍に対して日本政府へ行動を求める提言活動に参加した。4月共同要請書「ミャンマー国軍を利用する日本政府の経済協力事業を直ちに停止するよう求める」、6月共同要請書「日本政府はミャンマーに対する経済協力事業の全面的な見直しを」を賛同団体として提出。8月に(特非)地球の

木・(特非) まちづくり支援センターかながわ (アリスセンター)と共催で、「軍事クーデターから6カ月 ミャンマーの市民社会は今?～私たちにできること～」(講師:(特非)メコン・ウォッチ 理事木口由香氏)を開催した。

- ・5月総会記念講演会「生活困窮者の自立支援について慶南(韓国) 神奈川(日本)それぞれの地域から考える」を開催した。
- ・7月に「子ども買春・子どもポルノ禁止法」の改正を求める請願書の署名(アジアの女性と子どもネットワーク)をWE21グループに呼び掛け、832筆を送った。
- ・9月にアフガニスタンの政変に対して、WE21グループと共同で「アフガニスタン情勢におけるWE21グループの共同メッセージ」を表明した。
- ・2月に平和政策チームとともに講座「戦争被爆国日本の役割を考える 核兵器廃絶をめざして～行動する若者からの提言～」講師 高橋悠太氏を開催した。当講座開催直後起こったロシアのウクライナへの軍事侵攻。特に、核兵器の存在をちらつかせながらの侵攻は戦争被爆国日本の市民として、紛争をなくし誰もが安心して暮らせる平和な社会を築くことを理念としてきたWE21は、思いを伝えていくことを決定。ロシアによるウクライナへの武力行使に反対するアクションとして、声明文「NO WAR! NO NUKES! WE21グループはいかなる理由であっても武力行使に反対します。」を表明した。
- ・参加型システム研究所の「研究フォーラム2021」や、横浜NGOネットワーク(YNN)のSDGsよこはまCITYの11月、2月のイベントへの参加など、様々なネットワークを生かしながら共育の場を提供した。

【日時】 通年

【場所】 神奈川県内、及び近隣都県

【従事者人員】 30人(理事、事務局、開発教材チーム、平和政策チーム、CCF検討チーム)

【受益対象者】 市民、WE21グループのメンバー

【支出】 1,123,750円

2 資源のリユース・リサイクルを推進する環境事業

2-1 オンラインショップ事業の開設

- ・リアルショップの良さを保ちつつ、ショップのない地域、営業時間に行けない人、ネットショッピングに慣れている人などの新規客層を開拓するためにオンラインショップ事業を開設した。オンラインショップサイトからWE21(WE21グループ)のホームページにつなげ、私たちの活動を知ってもらうことで、ごみの減量や、経済優先からの環境破壊、また人権侵害や紛争など、地球規模で起きている社会問題を考えるきっかけにつながることを目指している。
- ・オンライン販売に向けたECサイトの選定、オンラインショップスタッフの確保などの準備を

行い、オンラインショップサイトを2022年1月19日より事業開始した。

- ・2022年度に地域NPOの参加を受け入れるための条件やマニュアル案などを整えた。
- ・今後は、オンラインショップを知ってもらうための広報、目標達成のための企画などを立案していく。

2-2 エコものセンターの運営

- ・(企) ワーカーズコレクティブ・キャリアによる、各ショップの在庫管理、搬出入、全国から届く寄付品等の管理が円滑に行われ、WE21とのキャリア便を利用した連携が進められた。
- ・リユース・リサイクルスタッフがエコものセンターに常駐することにより、エコものセンターの開所日が3日間(火・水・金曜日)になり、利用地域の自己管理がしやすくなった。また、森育ちのしょうがパウダーや地域への広報物のショップへの配送がスムーズに行えるようになった。
- ・エコものセンター近隣の人を対象とした「倉庫 de バザー」の開催を11月から毎月第3水曜日に開催し、収益を上げることができた。
- ・「倉庫 de バザー」の販売が先行して、WE21の活動やグループの紹介、近隣ショップとの連携などについては今後の課題となった。
- ・WEショップの利用減少による空きスペースが増加している。WE21及び利用地域の負担となってくるため、活用方法を検討する必要がある。

2-3 資源の地域内循環を進める

- ・グリーンダウンプロジェクトについて10月に学習会を実施して、羽毛製品回収拠点を拡大し、当初の8ショップから今年度末28ショップへと増えた。2021年度実績 羽毛布団343枚 ダウンジャケット530枚 CO₂削減量：656kg
- ・読み終えた本の有効活用として「つなぐ書店」と契約し、12月から開始して本のリサイクルを通じた寄付のシステム作りを進めた。
- ・めぐりケータイは8地域とWE21で175台の携帯電話・小型家電を回収した。
- ・廃食油回収20店舗 3,823kg回収 CO₂削減量：9,940kg
- ・新たなリサイクルシステムとして、古布から紙を作るという繊維の循環を目的としたCCFの活動に共感し、白の綿生地回収のための体制づくりを進めた。
- ・WE21グループが実施している様々な活動(再生エネルギーへの転換・羽毛製品回収・携帯電話・小型家電回収等)が地球環境にどう影響しているのかを社会に向けて分かりやすく表現し、参加を広げる必要がある。

【日時】 通年

【場所】 神奈川県内、及び近隣都県

【従事者人員】 25 人（理事、事務局、エコものワーキングチーム、オンライン販売検討チーム）

【受益対象者】 市民、WE21 グループのメンバー

【支出】 19,883,915 円

3 アジアの市民力を高める民際協力事業

3-1 フェアトレード事業

- ・森育ちのしょうがパウダーミーティング、「森育ちのしょうがパウダー生産地とつながる！オンラインスタディツアー」を開催、コーディネーターアイダさんや生産者との交流の機会を設けたことで、生産地への理解が大きく深まった。
- ・夢 21 福祉会まどか工房と連携した、森育ちのしょうがクッキーの販売を開始した。また、大川印刷での委託販売を開始した。世界フェアトレード月間では SNS 投稿を行った
- ・JICA 横浜が提供する「ICT を活用した NGO 能力強化研修」を受講し、IC ツールを活用した販売促進の伴走支援を受けた。
- ・森育ちのしょうがパウダーを 2,001 個販売した。森育ちのしょうがクッキー1,517 個、夏・冬のギフトセット計 13 セット。対面イベントでの販売機会の消失により、繰り越しの在庫が 700 個近く残る結果となった。
- ・有志の協力で、チャリティイベント「Kumusta ka na Philippines? フィリピンチャリティイベント」（以下フィリピンチャリティイベント）を開催。生産地のバーチャルスタディツアー風紹介や交流会を開催した。その結果新規の森育ちのしょうがパウダーの購入者や寄付者を獲得できた。次年度も、チャリティイベントの開催、ICT 研修の実践により、在庫分を含めた 2,300 個完売を目標としたい。

3-2 経験交流事業

- ・講演会「生活困窮者の自立支援について慶南（韓国）神奈川（日本）それぞれの地域から考える」を開催。日韓経験交流での学びを会員、地域市民、地域団体へと広げた。
- ・8 月日韓の生活困窮者支援を制度から考える学習会を、開催。日本の生活困窮者自立支援団体ことぶき協働スペースと慶南地域自活センターが日韓それぞれの制度の違いについて経験交流を行った。
- ・9 月 WE21 藤沢、相模原、都筑それぞれが行う環境活動、アップサイクル、リメイク、グリーンダウンプロジェクト(GDP)を慶南地域自活センターへ経験共有し、交流を行った。
- ・一年間、ZOOM による交流を実施したことで、担当者間での日韓での関係強化につながった。オンラインでの海外支援先との交流のモデルにもすることができた。ことぶき協働スペース等

の地域支援団体にも交流の輪を広げることができた。

- ・担当者間で深まった関係を、WE21 グループ全体へと広げていくことはまだできておらず、友好協定で目指している地域間交流には、未だ段階が必要である。
- ・当事業をモデルに経験交流を実施することを検討していたが、地域支援連絡会への取材が少しずつ始まった段階であり、資金面、ニーズ等更なる調査が必要である。

3-3 ネットワークを生かした民際協力の発信

- ・8月民際協力一覧を発行。会員、WE21 グループへの資料としての発行のほかに、このデータの活用について計画に含めたい。
- ・復興支援まつりは今年度開催中止となったが、生産者の物産品の応援購入に参加した。

【日時】 通年

【場所】 神奈川県内、及び近隣都県

【従事者人員】 13 人（理事、事務局）

【受益対象者】 市民、WE21 グループのメンバー

【支出】 4,488,694 円

4. 市民発の情報機能を高める事業及び、及び、前項 1, 2, 3 に関しての広報事業

4-1 ホームページの改定

- ・昨年度行なったサイト分析、組織診断を活かし、新ホームページを WE21 の顧客や支援者を対象に「集客」や「リピート化」を目的に改定を進めた。
- ・WE21 のミッションでもある「世界で起きている環境破壊・貧困の解決に向けて、気づき、考え、行動していく市民を広げていく活動」を活性化させるため、「情報発信基地」としてウェブサイトを位置付けし直した。22 年 5 月にはアップ予定である。
- ・ホームページ改定と合わせ、Facebook など SNS で発信する情報を整理し、ホームページと SNS それぞれ特性を活かし機能ごとに使い分ける必要がある。
- ・リユース・リサイクル事業などにおいても、オンラインやデジタルを活用した広報が必要であり、今後の検討課題としたい。

4-2 広報、情報受発信の充実

- ・循環をテーマに、国内循環・地域内循環に焦点をあてためぐりめぐる No.81 を 12 月に発行し、会員、寄付者、関係団体へ送付した。寄付月間に合わせ、寄付呼びかけチラシを作成し、めぐりめぐると共に配布した。
- ・年次報告書はカラー版で 9 月に発行し、企業・団体へ送付、WE21 グループの活動紹介に活用

した。11月にカラー化の感想や今後の活用などについて、地域に向けアンケートを実施した。結果をもとに課題を抽出し、次年度の年次報告書の作成に活かしていく。

- ・現行ホームページの更新を行い、WE21のイベントや報告などの発信を行った。
- ・WEショップの共通看板について、指定色やフォントなどが現状と合わなくなっているため、マニュアルの更新作業に着手した。
- ・「貧困なくそうキャンペーン」に合わせ、WEショップに取材訪問し、市民に向けSNSを通じWEショップの活動の様子をタイムリーに発信した。その他世界情勢に合わせ、社会に向けたWE21とWEショップの活動・情報発信を行った。
- ・毎月かわら版を発信し、地域NPOやWE21内の情報共有を行った。
- ・コロナ禍の緊急時において、地域NPOとの連携を図り、市民に向けWEショップの営業の状況を発信した。
- ・オレンジリーフレット、白リーフレットの活用について振り返りを行い、リーフレットの活用や役割を考え、次年度、見直しを行っていくことを決定した。

4-3 WEフェスタ

- ・オンラインイベントを企画するチームを立上げ、実施計画を検討し、1月開催の準備を進めたが、WE21の全体状況と広報の優先順位の変更により、中止を決断した。
- ・コロナの感染状況の影響で従来型の開催は課題が大きい。オンラインも含め、活動の紹介、他団体との連携、WE21グループ内の連帯など内容を検討し、新たな企画の可能性をさぐる必要がある。

【日時】 通年

【場所】 神奈川県内、及び近隣都県

【従事者人員】 15人（理事、事務局、アドバイザー）

【受益対象者】 市民、WE21グループのメンバー

【支出】 8,506,602円

5. その他、定款第3条の目的達成に必要な事業

5-1 組織基盤強化

- ・国際協力NPO基盤強化支援事業に採択され、伴走支援を受けながら、組織診断、課題の抽出、中長期取り組み課題の決定を理事、事務局で実施した。組織診断の結果も踏まえ、WE21のビジョン・ミッション・ゴール達成に向けての中長期計画を策定していく。その目指すところに沿って、組織、事業を作り上げていく。
- ・(特非) アクションポート横浜の仲介で、大学生の短期インターン2名、長期インターン2名を

受け入れた。主に民際協力事業で協働し、ギフトセット企画、バーチャルスタディツアー等、活発な事業実施を行うことができた。

- ・新人スタッフを中心に、地域 NPO 活動への理解を深める、WE ショップでの実地研修を行った。
- ・ボランティア参加拡大について、実施計画を立てられなかった。ボランティアに依頼する業務、ボランティアデーの設定を事務局で協議し、より積極的にボランティアを受け入れられるようにしたい。

5-2 財政基盤強化

- ・コロナ禍などにより WE21 グループの経営が厳しい状況で、事業強化のためにオンライン事業の設備投資や、経費削減のための事務所移転を行った。しかし、補助金の回収が年度内に完了しない、移転のための費用が予想以上にかかるなど、大幅な赤字決算となった。
- ・経営の立て直しを図るには、長期借入の融資を受け、日常の運転資金を確保する必要があると判断し、日本政策金融公庫から 300 万円の長期借入を行った。
- ・国際協力 NPO 基盤強化支援事業支援の下、ファンドレイジングスクールに事務局が参加し、寄付・会費・事業費拡大による資金調達の具体的な手法を学んだ。今後は寄付者アンケートなどを実施し、共感につなげたい。
- ・寄附強化月間を設け、会員・関係者へ寄付の呼びかけを行った。ファンドレイジングスクールの学びを活かし、物品寄付者への共感を高めるアプローチを行い、寄付拡大を図った。また切手・はがきの寄付チラシを刷新し、チラシがそのまま封筒になる方策をとった結果、切手・はがきでの寄付が拡大した。また、フィリピンチャリティイベントと関連したチャリティイベント「脂肪を燃やして国際協力～チャリティフィットネス」を開催し、個人、協賛企業からの寄付につながった。また、寄付サイト「シンカブル」でのバースデイドネーションイベントが 3 件あり、新たな寄付の手段として紹介していきたい。
- ・「つなぐ書店」と契約をし、読み終わった本を活用し、寄付につなげる仕組みができた。今後はより仕組みをわかりやすくしたチラシの作成など工夫が必要。

5-3 WE21 グループとのネットワーク

- ・グループ会議定例会 3 回(7 月、11 月、1 月)臨時会議 1 回(12 月)を開催した。12 月の開催後、委託費に関するアンケートを実施、ネットワークに関する問題提起も寄せられ 2023 年度に向けて早めにグループ会議で話し合っていく必要がある。
- ・オンライン事業検討チームや CCF 検討チームなど、WE21 グループメンバーと新たな事業展開について連携して行った。
- ・グリーンダウンプロジェクト説明会・CCF 実施説明会・フェアトレード教材活用講座など地域

での実施に活かすための説明会を開催した。

- ・事業復活支援金の情報収集など活用できる情報の提供を行った。

5-4 他セクターや中間支援組織との連携

- ・日本チャリティショップ・ネットワーク (JCSN) (以下 JCSN) に参加。昨年 1 月に『チャリティショップ白書～人、もの、想いをつなぐ場所』を JCSN が発行し、「チャリティショップ白書を読む会」と題した学習会を、WE21 と WE21 グループへも呼びかけ実施した。
- ・コア層である、チャリティショップを運営する関係者・団体を対象とした白書を読む会に WE21 と WE21 グループから 3 地域が参加した。
- ・チャリティショップ紹介動画の制作に協力し、1 月末に完成した動画をホームページで配信した。
- ・(特非)地球の木、(特非)まちづくり支援センターかながわ (アリスセンター) と共催でミャンマークーデターに関する学習会を開催した。
- ・生活クラブ運動グループの一員として、生活困窮者支援エンパワメント連絡会に参加した。
- ・参加型システム研究所に参加、12 月に研究フォーラム 2021 「With コロナの時代と生命や生活を大切にす経済・社会～アソシエーションが主役の社会への展望～」を実施。
- ・参加型システム研究所「多文化共生自主研究会 II」に参加。神奈川の地域で特に教育支援の実践について学ぶ。
- ・生き活き市民基金理事として通常の助成金に加え、コロナ緊急助成の紹介をした。
- ・(特活) 横浜 NGO ネットワーク (YNN) に参加。コロナ禍での NGO の情報交換をするとともに、12 月には WE21 のフェアトレード事業について、2 月にはショップを中心とした資源循環について紹介をした。
- ・大学との連携では、関東学院大学での衣類の資源循環に関する学生との連携、開発教材「今日はフェアトレードの日!？」ワークショップ実施を行った。横浜市立大学からのボランティア受け入れも 2 件行った。
- ・企業との連携では、チャリティイベント「脂肪を燃やして国際協力～チャリティフィットネス」に、(株)大川印刷、(株)アールケイエンタープライズ、(株)YNS、(株)もぐランドから協賛を受けた。

【日時】 通年

【場所】 神奈川県内、及び近隣都県

【従事者人員】 13 人 (理事、事務局)

【受益対象者】 市民、WE21 グループのメンバー

【支出】 3,110,419 円